

水稲早期栽培用新品種「みやにしき」の安定栽培法について

第2報 刈取時期

坂本真一・梅木佳良・*梶本 明
(宮崎県総合農業試験場・*宮崎県営農指導課)

本報では、「みやにしき」の開えいもみ対策と良質米の生産をねらいとして、昭和53年度に行なった刈取時期についての試験結果を報告する。

1. 試験の方法と条件

みやにしきとコシヒカリの2葉期苗(21日苗)を、4月10日に機械移植し、標準耕種法によって栽培した。そして、出穂期後25日から3日ごとに、4回に亘って刈取りを行ない、開えいもみの発生程度、収量、米質、精米形質などについて調査した。

なお、昭和53年度の登熟前期から中期にかけて、高温多照に経過したが、登熟後期には台風の影響を受けて天候不順な日が多かった。そのため、両品種とも7月21日ごろから倒伏のきざしが見られ、コシヒカリでは刈取時期にかけてかなり倒伏した。

2. 結果および考察

前述した気象と生育条件の下で、みやにしきの開えいもみ発生は、各刈取時期ともコシヒカリより3~4倍多く、刈取時期が晚いほど増加した。

精玄米重は、対照のコシヒカリが出穂前後31日刈取り(以下「31日後」という)まで増加したのに対して、みやにしきでは28日後以降は殆んど増加が認められなかった。玄米の整粒数歩合と検査等級は、各刈取時期とも、コシヒカリにくらべ遜色は認められなかったが、31日後以降になると28日以前のものより劣った。搗精歩留はコシヒカリと同様に、31日後までは殆んど差がなく、34日

第1表 刈取時期と収量・米質および精米形質

品 種 名	刈 取 時 期	精玄米重		玄米 ¹⁾ 整粒歩合		検査等級	搗精 ²⁾ 歩留	白米 開えい		倒 伏 (刈取期)
		kg/a	g	%	%			完全粒重歩合	ほみ数歩合	
みやにしき	出穂期後25日	52.6	22.2	88.7	1中	88.7	94.9	4.7	ム~ビ	
	28日	56.4	22.3	83.5	1中	89.1	94.0	11.4	少	
	31日	54.9	22.6	76.9	1下	88.8	88.0	15.5	少	
	34日	56.6	22.5	73.3	1下	88.2	88.3	21.9	少	
(対照) コシヒカリ	25日	45.2	21.0	88.7	1下	89.1	95.0	1.4	中	
	28日	47.4	21.3	64.3	1中	89.2	91.8	3.0	多	
	31日	48.6	21.3	67.1	1下~1中	89.3	90.3	3.4	多	
	34日	47.7	21.3	60.1	1下	88.4	86.5	5.6	多~甚	

注) 1) タテ目ふるい選した「1.8 mm」以上の玄米についての粒数歩合
2) 「Kett TP-2」使用

後になると若干の低下が認められた。また、白米の完全粒重歩合は、31日後以降になると低下が目立った(第1表)。

このように、みやにしきは刈取時期が出穂期後31日以降になると、米質や精米形質の劣化など商品性の上で問題が見られた。また、この時期になると、開えいもみの発生が目立ち、反面、玄米の肥大に伴う収量の増加は、あまり期待出来ないようであった。

以上の結果から、みやにしきの刈取適期は、コシヒカリよりやや早めの、出穂期後28日ごろと考えられる。刈取時期は出穂期後の気温の影響を受け易いので、出穂期後の積算平均気温から推定すると、この時期は750~760℃に達する時期にあたる。